

親知らずのこと

抜かないといけないの？

「歯の健康教室」は、スマートフォンでもご覧いただけます。



親知らずは、抜かないといけないの？

親知らずは「第三大臼歯（だいさんだいきゅうし）」や「智歯（ちし）」とも呼ばれ、第二大臼歯（12歳臼歯）の奥に位置していて、20歳前後で生えてくることが多く、痛みや腫れなどのトラブルが起こるのも、この時期が多いようです。

親知らずは、埋まったまま出てこない場合や、はじめから歯胚（しはい：親知らずの卵のこと）がなかったり、正常に上下でしっかり噛み合っていたり、生えてくるスペースがないため横や斜めに倒れているなどの個人差がありますが、悪影響がなければ、必ずしも抜歯しないといけないわけではありません。

ただし、一番奥に生えるために歯ブラシが届きにくくて不潔になり、炎症を起こしやすくなりますので、日頃からしっかりと管理することが大切です。

当院では、繰り返して痛みや腫れがある場合や、むし歯になってしまった場合には、隣の歯の健康のことも考えて、抜歯をおすすめしています。

抜歯を希望される場合には、特に下の親知らずを抜いた後に術後の腫れが出る場合がありますので、余裕をもって抜歯の予定を組んだ方が良いでしょう。

トラブルが起こりやすい生え方

